

夫 空港から直行で試合観戦に来るなんて、変な人だなあと感じていました。当時アメフト三昧の毎日を送っていた僕には、大企業の社長秘書をしていた彼女の話を知りただけで、世界が広がるようでした。タイの孤島のビーチで何もしない時間をふたりで何日も楽しめたとき、ずっと一緒にいられる気がしました。

プロポーズを2回断ったのは、結婚するにはまだ若すぎるかなと思っていただけ。最後は妻のほうから「幸せにします!」と約束され、母からも「そろそろ結婚してあげなさい」と背中を押されて心を決めました。幸せになったか?と聞かれたら、あえて「まだまだ!」と言って妻をからかいたくなりますね(笑)。

いつも元気で意識が外に向かっている妻といると、こちらまで意欲がわいてきます。海外赴任に挑戦しようという気持ちになれたのも妻の影響かもしれませんね。結婚って足し算ではなくて掛け算だと実感。いつもありがとう。

ツジ・ケイイチ 37

1974年北海道生まれ。新潟大学経済学部卒業後、97年、五洋建設入社。アメリカンフットボール部に所属しながら、人事、経理、法務に携わり、2007~10年シンガポールへ赴任。現在は労働組合に専従副書記長として出向中

夫27歳、妻29歳のときに結婚。長女の小夏ちゃん(6)と3人暮らし。

出会いは?

夫が所属していたアメリカンフットボール部の試合を妻が観戦に行き、その後の食事会で初対面。妻がひとめぼれ。

結婚までの道のりは?

妻が熱烈アタックの末、タイの孤島へ旅行に誘ったのがきっかけで交際スタート。妻の3回目のプロポーズが実を結び、出会って4年後に結婚。

家事や家計の分担は?

家事はできるほうがパパッと手早く。子どもの送迎は妻中心。日々の生活費は妻、資産管理は夫が担当。



妻 彼に振り向いてもらいたくて必死だった私は、彼が興味のあるようなイベントを次々に企画して誘っていました。彼とライスボウル観戦に行くために、女友達との海外旅行先から一人だけ帰国を早めて向かったことも。3度目のプロポーズで結婚が決まったときは卒倒しそうなくらい嬉しかったです。

彼が海外赴任中には育児ストレスがピークになって、家中のものをひっくり返したこともありましたが、彼からの「おつかれ〜」という一言メールに妙に気が抜けて楽になりました(笑)。

海外で力をつけている彼に刺激を受けて転職したい今の職場は、とても私らしく働ける場所です。社員食堂でもあるこのカフェには友達親子10人以上が集まることも。

保育園や両親や近所の人に助けられて、やっと毎日が過ごせていると思うと、家族が一日無事に過ごせて働けるだけでも奇跡! これからも奇跡の毎日と一緒に過ごしていきたいです。

ツジ・タカコ 39

1972年東京都生まれ。実践女子大学文学部卒業後、モスフードサービス入社。すかいらーくにて転職し、秘書を9年務める。育児休業復帰後に営業企画、お客様相談室を経て、現職に転職。接客、企画、PRなど幅広く担当する

辻 桂一

五洋建設

人事部付労働組合出向中

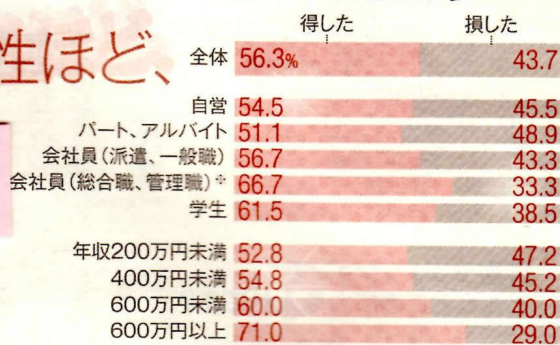
辻 貴子

あきゆらいず美養品

結婚は足し算ではなく掛け算



容姿で得したこと、損したこと、どちらが多い?



重要な日は、普段より身だしなみに力を入れる?



身だしなみで、仕事上の成果が上がると思う?



※教員・公務員、専門職(医師・弁護士)含む



山本浩未

ヘアメイクアップアーティスト
やまと・ひろみ
資生堂ビューティークリエーション研究所を経て、フリーに。著名人のヘアメイクを手がけるほか、女性誌でのコラム連載なども

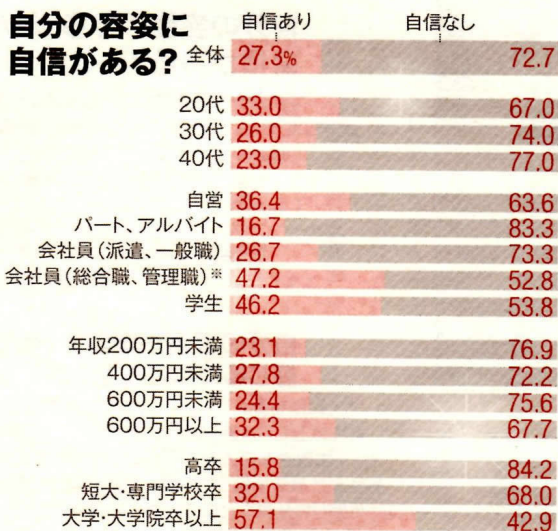
シーズンも頼みたいと言う。

男性はどう受け止めているのか。

今回の調査では男性100人にも聞いた。「どんな容姿の人と一緒に働きたいか」という問いには、「美人、かわいい」「表情が魅力的」などと答えた割合が非常に多い(29ページグラフ)。女性と一緒に仕事をしているときに視線がいくのは、ズバリ「顔」。3割以上が、容姿がいい女性を採用やプレゼンで高く評価、つまり「ひいき」した経験を持つ。男はどこまでもバカで正直な生き物である。

でも、こんな男性たちに評価してもらわなければ、仕事人生のスタートラインにすら立てない。そのことを痛感しているのが、就活中の女子学生だろう。8割近くの女子学生が、就活で身だしなみに気を使い、そのこ

自分の容姿に自信がある?



キャリア女性ほど、自信あり

幼く見えないよう、メイクをしたり、眼鏡のある「フォーマル」を

の

あるフォー

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

持っていた。ラフな洋服も許される社風だったが、20代の内勤時代でも、いつ接待や会合に呼ばれてもいいように、「丸の内OLっぽい」きちんとした服装を心がけていた。用事を頼まれやすいように、テキパキ見えるパンツスーツも愛用した。次第にマーケティングなども任せられるようになり、30代で年収約1500万円を稼ぐようになって

府要人にいきなり扱れない、格上感別のIT企業勤務の女性(34)



大竹のり子

エフピーウーマン代表
おおたけのりこ
ファイナンシャルプランナー。女性系FPによる独立系FP会社「エフピーウーマン」を率いる。顧客は女性が多い

3割の男性が「ひいき」

約5万円を払ってパーソナルコーディネーターを雇い、買い物に同行してもらった。ワードローブのチェックやコーディネートのレッスンも受け、洋服代も含めて30万円は使ったが、今

身だしなみに気を使い、そのこ

夫 まっすぐに夢を追いかける妻の姿に刺激を受けて、会社を辞めて仕事を変えたものの収入は半分。自分の力を磨ける場を探して、生花卸業、石工の修業、イタリアンレストランと、約5年の間に職場を三つ変えました。家族のために頑張っているつもりが、早朝に出勤して深夜帰宅の生活でほとんど妻と顔を合わせられず、気づけば家庭内がピリピリムードに。妻は離婚も考えていたらしく、カウントダウンが僕の耳にも聞こえてきました。

転機は、昨夏に妻が運営を任せていたカフェのスタッフの退職で店を閉める話が浮上したとき。「いつか自分の店を持ちたいって言っていたよね。閉めちゃっていいの？」と妻が僕の夢を思い出させてくれました。一晩考えて「僕がやる」と。

今は妻の存在を背中で感じながら、ゆっくりとコーヒーを入れる日常に満足です。パワフルで情熱家の妻ですが、本当はのんびり屋さんな面もあると、僕は知っています。

イクトウ・ヒロユキ 38
1974年大阪府生まれ。95年日本福祉教育専門学校を卒業後、日本珈琲販売共同機構に入社。妻の退社後に、生花卸業、石工修業、イタリアンレストラン勤務を経て、2011年夏から妻が経営するサロンの店舗内でカフェ「Pan no me」の運営に携わる

夫24歳、妻24歳のときに結婚。長女(9)と3人暮らし。

出会いは？

妻が店長として働いていたコーヒーチェーンの渋谷の店舗に、年末年始のヘルプスタッフとして夫が手伝いに行った。

結婚までの道のりは？

勤務後にスタッフ皆で飲みに行った後、「家に帰るより出勤が楽だから」と夫が妻の家に居着くようになり交際へ。

交際半年をへて結婚。

家事や家計の分担は？

育児と食事関係は妻中心で、掃除は夫中心。

財布は一緒に管理。



妻 マッサージ好きが高じて会社員時代から副業でサロンを開いていたのですが、出産後に実質的なリストラ（いま思えば）にあったのを機に、セラピストとして独立。その時点ですでに予約3カ月待ちをいただいていたので、すぐに軌道に乗せることができました。

夫と出会ったときは上司と部下の関係でしたが、最近ようやくそのとらわれがなくなって、自然体で過ごせるようになってきました。私がセラピーで取り入れているアーユルヴェーダの考え方に照らすと、夫は「水」や「土」の人で、私は正反対の「風」や「火」のタイプ。仕事を頻繁に変える夫に半ばあきれながらも、「この人には底力がある」という思いが捨てきれなくて。夫はというと、「頑張るから見ていて」と淡々としていました。ずっと鳴り続けていた“離婚カウントダウン”は結局、ゼロになることはなく、今は幸せです。夫婦って、時間が解決することが多いのかもかもしれませんね。

イクトウ・ヒサヨ 37
1974年東京都生まれ。95年日本工学院専門学校卒業後、日本珈琲販売共同機構に入社。メニュー開発、店長業務を主に担当し、2007年に退社。同年、アーユルヴェーダサロン「小桃堂」をオープン。10年にカフェも併設。セラピスト「亜莉」として活動する

生藤博之
カフェ店長

生藤尚代
セラピスト／パン講師

カウントダウンがやまなくて

夫 出会って3週目で、彼女から交際を申し込まれたときは、「女性から言わせてすみません、ありがとうございます」という感じでした。自分は饒舌なほうではないんですが、彼女とは最初から話題を選ばず、楽しく話げできた。好意があったから、3週連続で食事に誘った訳で。40歳すぎで、こういう人に出会えた自分をとても幸運に思います。

過去に自分もベンチャー企業にいたことがあって、名もなき社長が時代の寵児になるのを見ている。その体験をレナ本人ができたなら、どんなに素晴らしいことか。だから、本当にがんばってほしい！彼女がやっていることに間違いはなく、あとは思いを切らさないようにすればいいだけ。時間がかかっても、いずれすごいことになるんじゃないかと、本気で期待しています。

起業したばかりで、なにかと不安が多いだろうけど、世の大社長もみんな最初は同じ。置かれている状況と客観的に向き合いながら、自分を信じて前へ前へ！

シミズ・セイイチ 46
1965年、千葉県生まれ。86年専門学校卒業後、金融機関、ベンチャーキャピタル、不動産ファンド会社などで経理・財務、上場準備、REIT組成、経営企画などの職務を経験し、現在、上場不動産会社の管理部門責任者を務める

夫43歳、妻36歳で結婚。ともに再婚。

出会いは？

共通の知人に紹介され、初めてのデートでゴルフの練習をする。その後、毎日メールをやりとりし、3週連続で食事へ。

結婚までの道のりは？

3回目の食事後、妻から電話で交際を申し込み、交際スタート。その半年後に夫の家で同棲を始め、さらに2年後に結婚。

家事や家計の分担は？

妻が部屋の掃除と洗濯、週末の料理を、夫は風呂掃除、ゴミ出し、食器洗いを。財布は別々だが、オープンにしている。



清水誠一
不動産会社役員

清水レナ
CHANCE for ONE代表取締役社長

妻を成功に導く夫

妻 彼と出会ったとき、私はごく普通の会社員でした。そこから専門的な仕事に変わって起業し、シェアオフィス&サロンをオープンしました。そのプロセスを彼はすべて見守ってくれています。

私はどちらかというとスロースターターで、どの仕事も初めはものすごく苦しむんです。でも1、2年たつとポーンと上げられるタイミングがある。自分では忘れていたそのことを、彼が「レナって最初は苦しむけど、その後は必ずうまくいくじゃん！」と思い出させてくれて。お気楽な感じで言ってくれるのがまたいいんです。ときには厳しい意見もありますが、毎日「レナにできないことはないよ！」とおだてられると、自信がなくてもその気になれるもので。私、彼と出会っていなかったら、起業できなかったと思います。

いつも、大きなあなたの存在に助けられています。「あのときは、無我夢中だったよねえ」って笑いあえる日がくるように、がんばります！

シミズ・レナ 39
1973年、横浜市生まれ。96年、立命館大学卒業後、人材会社キャリアコンサルタント、コーチング会社ビジネスコーチなどを経て、2010年清水レナ事務所を開業、12年株式会社CHANCE for ONEを設立。同年5月、女性専用シェアオフィス&サロン「GINKGO」(<http://chanceforone.jp/ginkgo/>)をオープン